

海外援助を通じたガーナ国灌漑地区における持続的水管理組織の構築
Establishment of sustainable water management organization through overseas
assistance in Irrigation Projects in Ghana

○佐藤 勝正 (SATO Katsumasa)*
佐藤 政良 (SATO Masayoshi)**

1. 背景と目的

1997年より2004年までの7年間(2年のフォローアップ期間含む),同国の灌漑開発公社(GIDA)を実施機関として,国際協力事業団(現国際協力機構:以下JICA)を通じた技術協力による灌漑小規模農業振興計画(以下SSIAPP)が実施された。同プロジェクトの目標は「GIDA管轄下の灌漑農業地域においてモデル営農システムが確立する」におかれ,2ヶ所のモデル灌漑事業地区としてアシャマン地区(ア地区)およびオチェレコ地区(オ地区)を選定し,栽培,水管理,農業機械,営農・農民組織,研修の5分野で適正技術の開発および営農システム確立のためのGIDAによる支援体制の強化を主な活動とした。

2. ア地区およびオ地区の概要

Table 1 ア地区およびオ地区の概要(2004年1月現在)

Outline of Ashaiman and Okyereko Irrigation Scheme (as of January, 2004)

	ア地区	オ地区
灌漑利用面積	56ha	81ha
農民組合員数	95	131
農民形態	入植農民	村落農民
水管理担当者(水番)	農民	GIDA職員
組合長	元GIDA副総裁 ¹⁾	オチェレコ村酋長
水利費(セディ/ha/作期)	¢250,000(約3,000円)	¢1,000,000(約12,000円)

¹⁾ 2003年末までの任期

3. 調査

両モデル地区の水管理における組合とGIDAの役割について調査を行った。次にSSIAPPの活動を通して水管理に対する両地区の農民の考え方がどのように変化したか,SSIAPPの開始時および終了時に農民の意識調査を行った。更に水利費の運用について,施設の維持管理費および事務費等への支出状況や施設の維持管理状況の調査を行った。

4. 結果

4.1 農民参加パターンの相違

オ地区では,GIDA職員のスキーム・コーディネータ(SC),水番(水管理担当者),普及員と農民組合職員のスキーム・マネージャ(SM)がGIDAと組合,組合と農民の間に位置しているのに対し,ア地区ではSCとSMが排除され,水番も農民が担当している。この結果参加型灌漑管理に支障をきたしている。またオ地区は酋長が組合長を務めており伝統的農村

*国際協力機構筑波国際センター JICA Tsukuba International center

**筑波大学農林工学系 Institute of Agriculture and forest engineering, Tsukuba University

技術協力,持続的水管理システム,ガーナ国

社会を背景として農民同士の繋がりが強い。これに対しア地区は、GIDA の元副総裁が組合長を務め明朗な組合運営を目指していたが、収支報告の不備などもあり一部の組合員から反発を買っていた。同組合長は、2003 年に任期が終わり現在組合長を退いている。

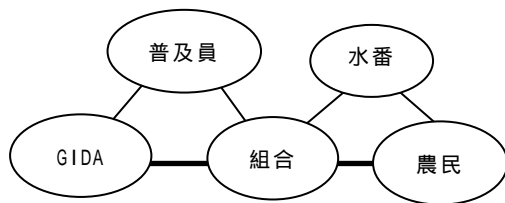


Fig.1 アシャマン地区の農民参加パターン
Pattern of farmers' participation in Ashaiman

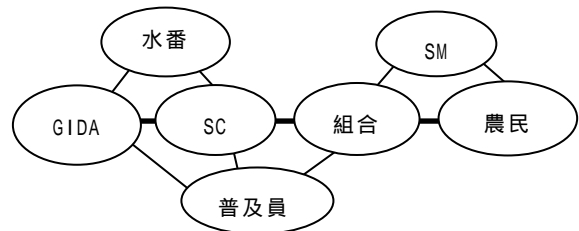


Fig.2 オチェレコ地区の農民参加パターン
Pattern of farmers' participation in Okyereko

4.2 水利費運用状況調査結果

オ地区の水利費運用状況を 2002 年 9 月より 2004 年 2 月までの水利費出納簿をもとに項目別に整理した。ア地区は SSIAPP の請求にも関わらず水利費を管理する出納簿の提出がなかった。IDC 農民組織ユニットによると収支は適正に管理されておらず支出項目の記録もされていないとのことであった。また既にいくつかの分水マスは破損したまま修復されず放置されており、一部の農民から O&M 費の支出に対する不満が出ていた。

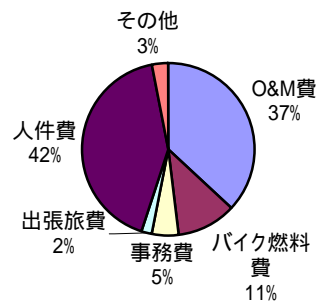


Fig.3 オチェレコ地区水利費支出項目
Items of expenses of ISC in Okyereko

5. 考察

オ地区では SC、普及員、水番に経済的支援をするなど SSIAPP の活動を通して GIDA との共生を選択した。更に組合と農民の間には SM が介在して水利費やその他の組合費が透明性と説明責任を伴って管理され、組合と農民の信頼関係を構築している。オ地区の農民参加パターンは組合が中心となって灌漑管理に参加している組合中心型参加パターンとすることが出来る。これに対してア地区は GIDA の関与を出来るだけ排除した結果、水利費管理に関わる不透明さから組合と一部の農民の信頼関係も良好とは言えない。更には配水と耕起は個人主導の傾向が強く、耕耘機の維持管理は GIDA に依存するなど組合の団結力に乏しい。ここではオ地区の組合中心型と対峙して農民中心型参加パターンとすることが出来る。

6. 結論

ガーナ国のように施設を利用した灌漑農業の歴史が浅い国では、オ地区の組合中心型参加パターンに見られる組合と農民の信頼関係を構築しながら組合として政府との共生を図ることが持続的水管理システム構築のために得策であると思われる。そのためには政府と組合をコーディネートする SC の役割、組合と農民の間に透明性 (Transparency) と説明責任 (Accountability) を確保する SM の役割が重要であると思われる。